

# 経営学部

## 令和7年度 編入学試験

---

### 1. 実施状況

#### (1) 志願者数、合格者数等

非公表

#### (2) 本入学試験の目的

本学では、多様な入学試験制度を導入し、受験生に対して幅広く受験の機会を提供しています。そのうちの「編入学試験」は、2つの選考方法で構成されています。

学内入学選考：本学併設の短期大学部（通信教育課程含む）からの編入を目的とした試験です。

以下の区分に分けて選抜を行います。

- ① 「特別推薦編入」：短期大学部で優秀な成績を収めた学生（口頭試問による選考）
- ② 「スポーツ編入」：スポーツで優れた実績を持つ学生（小論文と口頭試問による選考）
- ③ 上記以外の短期大学部生（英語科目と専門基礎テストによる選考）

一般入学選考：他の教育機関からの編入を目的とした試験で、英語科目と専門基礎テストによる選考を行います。

これらの試験は、それぞれ特別な方法で選抜を行うことで、専門的な知識や多様な経験を持つ学生を受け入れ、本学部をより活発にしていけることを目的としています。なお、合格者数等については公表しておりませんが、例年の倍率は2～3倍となっています。

### 2. 試験内容・出題の意図

#### (1) 書類審査

卒業証明書や在学証明書、成績証明書で出願資格を充足するかを確認したうえで、志望理由書により、本学部への入学意欲や将来のキャリアの見通しや目標について、しっかり自分の意見が述べられているかを確認しました。そのほか、学内入学選考の特別推薦やスポーツ編入では推薦書や各種競技での大会実績も確認しています。

#### (2) 英語

経営学の基礎知識およびビジネスに関する時事的な内容についての基礎的な英語力を測定するため、60分間で3つの設問に解答する問題を出題しました。問1と問2では、400～500語程度の英文によるビジネス関連記事を引用し、語彙選択・文意理解・数値解釈・要約などを通じて総合的な英文読解力と情報整理力を問いました。テーマはサービス産業とインバウンド需要、外国人労働者に関する問題を出題しました。問3では、経営学における基本概念や定義、時事的なビジネス用語の理解を確認する語彙補充問題を出題し、専門用語の知識と文脈把握力を同時に測定しました。

いずれの設問も、4つの選択肢から正答を1つ選ぶ選択式で実施しました。

### (3) 基礎テスト

経営学、商学、会計学、キャリア・マネジメント学に関する基礎テストとして、各分野5問ずつ出題しました。

(経営学) 株式会社の仕組みについて、基本的な知識を問う問題を作成しました。株式会社制度や株主と企業の関係、株式投資の基本を理解しているかどうかを問いました。

(商学) AIDMA や DAGMAR、AISAS、FCB といった広告効果モデルを題材に、基礎理論の理解度や、現代の消費者行動をどのように捉えているかを確認することを意図しました。

(会計学) 貸借対照表に示される資産に関する基礎的な知識を問いました。資産が流動資産・固定資産・繰延資産の3つに分類されること、そのうち流動資産と固定資産に分類される基準は2つあるが、優先されるのはどちらかといった基本的な知識を問いました。また繰延資産という会計学独自の資産概念について背後にある理論を問いました。

(キャリア・マネジメント学) キャリアを取り巻く社会・経済的な状況の理解と自律的キャリア構築に関する基礎的な理解を問いました。

### (4) 小論文 (スポーツ編入学)

近年話題となっている地域スポーツの振興とスポーツ環境の整備について、高松平蔵氏「日本人はスポーツの便益を軽視しすぎている」(東洋経済オンライン)を読んで、海外における地域スポーツのあり方と日本における課題について整理し、小論文の記述内容について明確に考え方が述べられているかを確認することを目的に出題しました。

小論文試験では1000字程度の文章で課題文に対する自らの見解について記述できているか、小論文が経営学部スポーツマネジメントコースの学習に取り組む上で十分な内容となっているかを確認する方式を採用しました。

### (5) 口頭試問 (特別推薦編入、スポーツ編入のみ)

約10分間の口頭試問では、2名の面接担当教員が1名の受験生に対して、事前に提出された志望理由書などにより、本学部への入学意欲やアドミッション・ポリシーに叶う者かどうかを確認しています。

## 3. 評価のポイント

### (1) 英語

3つの設問のうち、問1と問2は、英文の記事内容を正確に読み取り、語彙や数字の意味を理解したうえで論理的に判断できる能力を測る点にありました。時事的な記事を通じた総合読解力、情報整理力、要約力を評価するとともに、経営学の基本概念や専門用語を正しく選択できる知識面も重視しました。さらに、限られた時間内で適切に情報を整理し解答できる処理速度や実践的な読解力も評価のポイントでした。問3は、経営学の基本概念、ビジネスに関する重要用語を英語で正確に理解していることを求めました。各設問は教科書や実務で頻出する定義や用語をそのまま用いており、単語の意味の記憶だけでなく、定義文や事例を読み取り、適合する用語を論理的に判断できるかという専門知識と英語読解力の双方を持つことが評価のポイントでした。

### (2) 基礎テスト

(経営学) 株式会社の概念についての理解、ならびに株式会社制度や株式投資に関する知識を有して

いるかを評価しました。

(商学) 評価の主眼は、単なる理論の暗記度ではなく、AIDMA や AISAS など広告効果モデルの基礎理解を踏まえ、現代の消費者行動にどの程度結びつけて説明できるかに置きました。記入式での低い正答率からは知識の定着不足が見られましたが、選択式では一定の対応力が確認でき、学習のきっかけは得ていると判断いたしました。以上を踏まえ、理解の正確さよりも「理論を使いこなす視点」と「知識を活用する姿勢」を評価の中心としました。

(会計学) 貸借対照表が何をあらわしているのか、そして構成要素である資産の分類ができ、なおかつその分類の判断基準や背後にある理論を理解できているかについて評価しました。

(キャリア・マネジメント学) 変化する環境において主体的にキャリア構築をしていくために必要とされる要件についての知識を有しているか確認しました。

### (3) 小論文 (スポーツ編入学)

小論文試験では、ドイツにおける地域スポーツが活発である状況について、その理由について理解ができているか、日本では地域スポーツの現状についてどのように考えられるか、また日本のスポーツが持つポジティブな点とネガティブな点について自らの見解を有しているか、大学スポーツとの関連から規範意識についてどのように考えるのかを説明できているかを評価しました。

小論文では課題文に対して適確に記述を行っているか、文章として誤字脱字に注意し、文章を作成できているか、小論文として自らの見解について明快に記述を行っているかに着目し、評価を行いました。

### (4) 口頭試問 (特別推薦編入、スポーツ編入学)

口頭試問での評価の主なポイントは以下のとおりでした。

- ・自分の言葉でしっかり説明できているかどうか。
- ・なぜ本学部を目指そうとしたのか、それが自身の学習とどのように関連するのかどうか。
- ・入学後、何をどのように学びたいのか、学業の目標を示すことができているかどうか。
- ・自身のキャリアプランを明確に持っているかどうか。
- ・自身の強みをしっかりアピールできるかどうか。

## 4. 解答状況

### (1) 英語

問1 および問2 では、語彙選択問題において誤答が多く見られました。英文記事の内容や文脈に即して適切な語を選択する読解力と語彙力、語彙の多義性を理解する力、さらに前後の論理関係を正確に把握し適切な接続詞を選ぶ力の有無が、得点差として表れました。問3 では、経営学の基礎概念や定義の理解に加え、時事的なビジネス用語に関する幅広い知識と語彙力を身につけていることが高得点につながりました。

### (2) 基礎テスト

(経営学) 記号問題の正答率は高い印象でした。記述問題では正しく記入できていない受験生も多く見受けられました。マークシートだと正解しそうだが、記述になると正確に記入できないようでした。多くの受験生が株式会社についての知識を有していましたが、正確性が足りない印象でした。

(商 学) 理論的な知識を正確に説明する点にはやや弱さが見られました。特に記入式の設定では基礎の理解不足が影響し、回答率が低い傾向が目立ちました。一方で選択式ではある程度対応できており、理解のきっかけは持っているものの、知識として十分に定着していない様子がうかがえました。

(会計学) 問1の貸借対照表の借方に示される資産が、資金の運用形態を示していることを理解している受験生が少ないのが印象的でした。解答の傾向について、全体として言えるのは、高得点の受験生と全く得点できていない学生との差が歴然でした。少なくとも希望する学科の基礎テスト科目で失点することのないよう、準備をしてください。また記述試験では、誤字・脱字は減点対象となりますので、注意深く解答して下さい。

(キャリア・マネジメント学) よく勉強して得点できている受験生とそうでない受験生との差が大きかったです。記号問題に比べると記述問題に関しては正答率が下がる傾向にありました。

### (3) 小論文 (スポーツ編入学)

小論文試験では課題文の内容について理解できているかを点数評価し、地域スポーツの環境整備について自らの考えに基づいて説明している高評価の解答がみられました。また日本の地域スポーツについて説明を加えており、ヨーロッパとの比較について記述ができていない解答も散見されました。大学生活における規範意識については十分な解答がみられました。

## 5. 次年度の受験生へのアドバイス

令和8年度入試から英語試験を廃止し、代わりに英語外部試験のスコアを得点化します。

目的や出願条件等に変更はありません。専門科目ではどの分野も基礎的な内容から出題されているため、一つでも多く正解となるよう、基礎の復習を徹底してください。

スポーツ編入学で実施している小論文については、専門知識を問うような出題は見込んでいませんが、文章を読んで、自分なりに要約する力、そしてそれを踏まえて、自分の意見をしっかりアウトプットできる力を養っていただきたいと考えています。この力は、入学後も必ず必要になるものですので、トレーニングを積んでいただくことを期待します。

特別推薦編入、スポーツ編入で実施している口頭試問については、本学部で学ぶに足る基礎学力は充足されているという前提で選考されることとなります。そのため、口頭試問で、なぜ近畿大学の経営学部なのか、経営学部で学ぶことを将来にどのように活かしていきたいのか、そのためには在学中、どう学んでいくのかという姿勢を、しっかり認識していただくことが重要だと考えています。これらを棒読みするのはなく、自分の言葉でしっかり組み立てて、そこから派生するであろう質問を想像しながら準備していただくことが良いだろうと思います。